

令和8年度第6回 感染症発生動向調査協議会

令和8年9月16日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2026年第32週～35週・8月）

<全数把握対象疾患>

2 類

- ・ 結核が16例報告あり（本年累計の対前年同期比90.5%）。発症者10例中2例は20歳代であったが、他の8例は60歳以上（60歳代1例、70歳代3例、80歳代2例、90歳以上2例）であった。

3 類

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症が13例報告あり（本年累計の対前年比162.5%）。

4 類

- ・ E型肝炎が1例報告あり（本年累計は9例、対前年比100%）。
- ・ デング熱が1例報告あり。
- ・ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が1例報告あり（県内で本年3例目、県内通算4例）。
- ・ 日本紅斑熱が4例報告あり（県内で本年5例目、県内通算12例）。

5 類

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症が2例報告あり（本年累計の対前年比106.1%）。0歳児1例（ワクチン3回接種）、90歳以上1例（ワクチン接種歴なし）であった。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が2例報告あり（本年累計の対前年比68.0%）。
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が2例報告あり（本年累計の対前年比162.5%）。病原体検出情報によると8月に検査した2例は、ともにOXA-48型カルバペネマーゼ産生大腸菌であった。
- ・ その他、アメーバ赤痢、後天性免疫不全症候群（無症候性キャリア、30歳代男性）、侵襲性インフルエンザ菌感染症が、各1例報告あり。
- ・ 梅毒が14例報告あり（本年累計の対前年比69.1%）。男性は7例すべてが早期顕症（20歳代3例、30歳代1例、40歳代1例、50歳代2例）であったが、女性は7例中3例が早期顕症（10歳代1例、20歳代1例、30歳代1例）、4例が無症候（20歳代1例、30歳代1例、50歳代2例）であった。

<定点把握対象疾患>

- ・ 新型コロナウイルス感染症は、第32週に県全体での定点あたりの報告数3.0（中濃圏域では7.8）であったが、それ以降は1.6～1.9（中濃圏域では2.1～4.4）の間で推移した（前年同期比21.2%）。
- ・ インフルエンザは、県全体での定点あたり報告数0.3～0.5の間で推移した。
- ・ 急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体での定点あたりの報告数25.3（第33週）～37.5（第32週）の間で推移した。

- ・ 手足口病は、第 32 週に県全体での定点あたりの報告数 4.4 であったが、第 35 週には 1.7 まで減少した。
- ・ 性感染症定点疾患は、同期累計でみると、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症は減少、性器ヘルペスウイルス感染症は同じレベルで推移している。

2 検討すべき課題

- ・ ダニ媒介感染症について
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症について
 - － カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌（CPE）の検査について
- ・ 病原体検出情報のフィードバックについて
 - － 上記感染症/病原体について（ダニ媒介感染症、CPE の検出情報、等）
 - － 急性呼吸器感染症（ARI）からの検出病原体について

3 情報提供すべき事項

- ・ 結核・呼吸器感染症予防週間（9 月 24 日～9 月 30 日）
 - － 結核、呼吸器感染症予防啓発
- ・ 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に向けての感染症リスク評価
 - － <https://id-info.jihs.go.jp/mass-gathering/asiad2026/risk-assessment/20260727-risk-assessment-of-asiad2026.pdf>

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 第 30 回日本神経感染症学会総会・学術大会

日時：2026 年 10 月 16 日（金）・17 日（土）

場所：じゅうろくプラザ

市民公開講座（「知ると役立つワクチンの話」

10 月 17 日（土）16：00-17：30 じゅうろくプラザ 2 階ホール

<検討結果>